

中小／スタートアップ企業と考える 「本業に集中」をかなえる秘訣とは



「カボック」という木の実由来の素材でアパレル業界の変革に挑むカボックジャパン。ビジネスを急拡大している同社が、業務の効率化や従業員の利便性向上などを目的にビジネスカードの導入を計画中だ。同社の社長を務める深井 喜翔氏とビザ・ワールドワイド・ジャパンの三浦 知実氏が、ビジネスカードを導入するメリットや、効果を最大限に引き出す活用方法について、フリーアナウンサーの榎戸 教子氏を交えて語りあった。

老舗の4代目が見据えるアパレル業界の未来

榎戸 ファッションブランド「KAPOK KNOT（カボック ノット）」では「カボック」という木の実由来の珍しい素材を使っているらしいです。このビジネスを立ち上げた経緯を教えてくださいませんか。



カボックジャパン株式会社
代表取締役社長
深井 喜翔氏

アパレル業界の
負のシステムを変えていきたい

深井 私は、創業76年目のアパレルメーカーの4代目で、次の76年をデザインするのが自分の役割だと考えています。ご存じのように、アパレルは大量生産・大量廃棄が前提で、環境負荷がとても大きなビジネスです。この負のシステムを何とか変えたいという思いがありました。

そんな中で、木の実から取れるコットンであるカボックに出会ったのです。カボックの特徴は軽さと機能性にあります。重さは従来のコットンのわずか8分の1。繊維が空洞になっていて、寒いときには湿気を吸って暖かく発熱し、ダウンと同じ暖かさを実現できます。逆に暑いときには湿気を放出して涼しく快適にします。

ただ、その軽さと短さゆえに糸にすることが難しく、これまで商品化が困難な素材でした。それが大手企業との研究開発の末に、シートに加工することでようやく商品化に成功したのです。この素材を使えば動物を傷つけることも、木を伐採することはありません。「これこそが自分が人生をかけて取り組むべき素材である」という感覚を持ち、家業とは別の会社を立ち上げて、2019年10月からKAPOK KNOTをスタートさせ

ました。

榎戸 今日、三浦さんが着ているシャツも私が着ているワンピースもKAPOK KNOTにご提供いただいたものです。深井さんのアウターもそうですね。

深井 もちろんです。三浦さんのものはシャツですが中にダウンが入っているような形状になっています。襟付きで、ビジネスカジュアルとしても利用できるのが、ユニセックスのシャツですが男性の方にも大変好評です。



KAPOK KNOTの服

三浦 あまりにも薄くて軽くて驚きました。着心地も快適です。

ビジネスカードを持つまでが起業

榎戸 今回、深井さんは、新たにVisaのビジネスカードの導入をお考えだそうです。どのような理由からでしょうか。

深井 この3月までは、私のほかに正社員が1人しかいなかったもので、ほとんどの決済で私の個人的なクレジットカードを使っていました。4月からは正社員が6人に増えたことで決済の件数が急増して、1人で目配りするのは難しいかなと考えたからです。経理の手間を考えてもビジネスカードを導入した方が、飛躍的に効率が向上しますからね。

三浦 深井さんのように中小／スタートアップ企業の経営者の方は、個人のカードで決済していらっしゃるケースも少なくないのですが、経営者こそ、ぜひビジネスカードをもっといただきたいと思います。プライベートの支出とビジネスの費用を1つのカードでまとめてしまうと毎月、まず明細をにらみながらプライベートとビジネス用の明細を仕分けるところからはじまると思います。ただでさえ会計処理が面倒なのに、非効率性が増すばかりです。

榎戸 確かに、経費精算処理そのものは付加価値を生みませんよね。この手間暇を本業に振り向ければビジネスの成長に寄与できることになりそうです。



ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社
ビジネスソリューション シニアマネージャー
三浦 知実氏

「ビジネスカードを持つまでが起業」
という意識を浸透させたい

深井 ビジネスクレジットであれば、利用した日から引き落としの日まで期間があるので、資金繰りに余裕ができる点にも期待しています。我々のようなスタートアップの事業には、どうしても先行して資金が必要なケースも少なくありませんから。

三浦 そうした目的でビジネスクレジットを使用される経営者の方もいらっしゃいます。会社を立ち上げる際には「会社の登記をする」「銀行口座を開設する」で終わりではなく、その先のスムーズなビジネス運営を見据えて「ビジネスカードを持つまでが起業」という意識をVisaとして醸成していきたいと考えています。

深井 社員が、例えば海外出張で立て替えて気にしなくてすむようになる点も大きなメリットですね。私たちは、原料の調達からお客様のお手元に届くまでのプロセスを外部に任せずに自分たちで責任を持つ「Farm to Fashion」というコンセプトを打ち出しています。今はコロナ禍であり行けないのですが、今後は海外の縫製工場やインドネシアの農園など現地を社員たちが訪問する機会が増えてくるはず。その際に、ビジネスカードがあればホテルや交通費、食事、雑費などの精算業務もスムーズになると考えています。

榎戸 私も会社員時代には立て替えが大きな負担になっていました。特に、海外出張は為替の計算も必要になりますし、とても面倒です。

三浦 社員が増えてくると、立て替え精算の手間が本当に膨らんできますよね。ビジネスカードの中でもビジネスデビットの多くは、複数枚発行して社員に配布することも可能です。

深井 なるほど、それは便利そうですね。ただ、経営者としてはビジネス用途以外で使用されてしまうのではないかという懸念もありますね。

三浦 複数枚発行が可能な場合、各カードごとに、利用の一時停止・限度額設定など管理機能も付いているので安心です[※]。決済のたびにメールで自動通知する機能もあります。このように安心を担保する機能が付いたカードを社員に持たせると、立て替え精算の手間を省ける上に、社員の満足度も上がるはずですよ。

※発行会社によって異なる。詳しい条件などについては、発行会社に要確認



フリーアナウンサー
榎戸 教子氏

会社員時代には 立て替えが大きな負担でした

与信審査がないビジネスデビット

榎戸 実際にビジネスカードを導入した企業では、どのような用途で利用しているケースが多いのでしょうか。

三浦 ビジネスカードというと交通・宿泊費、接待での利用というイメージが強いかもしれませんが、ここ数年は大幅に利用シーンが拡大しています。具体的には、クラウドサービスのサブスクリプションやネットショッピングサイトでの調達、業務用の仕入れも現金や振り込みに代えてカード決済に切り替えている企業が急増しています。Visaのビジネスカードであれば海外の加盟店でも広く使えるので、事業の川上から川下までの広範囲でビジネスカードを利用されるケースも増えつつあります。



■クレジットカード

- ・後払い
- ・資金繰りに余裕ができる

■デビットカード

- ・即時払い
- ・口座残高の範囲内で支払いが可能
- ・与信審査なし

榎戸 先ほど、三浦さんから「ビジネスデビット」という単語が出てきましたが、クレジットとは異なる商品なのでしょうか。

三浦 クレジットが後払いであるのに対してデビットは即時払いという違いがあります。加えて、クレジットカードの発行時に必要な与信審査がないことです。銀行口座があれば、カードの発行が可能です。カードを使ったその場で即時に口座から引き落とされます。

さらに、利用限度額は預金口座残高の範囲内であること[※]。お客様からは、リアルタイムにキャッシュフローが確認できる点をご評価いただいています。

深井 ほかのスタートアップ企業の経営者から、手元に十分なキャッシュがあるのにクレジットカードの上限額に縛られて高額決済ができなかったという話を聞いたことがあります。

三浦 デビットカードなら、そうした問題を解消できます。与信審査がなく、銀行の口座開設と同時に申し込みできることもスタートアップにはうれしい点だと思います。

一方、ビジネスクレジットでも最近では、個人事業主やスタートアップに特化したラインアップが増えてきていますので、ぜひ[こちら](#)もご覧ください。

※発行会社によって異なる。詳しい条件などについては、発行会社に要確認

カード決済がビジネスを加速

榎戸 ビジネス用途では、デビットカードの方が便利だということでしょうか。

三浦 デビットカードと比べると、クレジットカードにはカード利用日から引き落としまでの支払いサイクルが長いという利点があります。私たちは、ビジネスクレジットとビジネスデビットのどちらが商品として優れているか、というものではないと思っています。スタートアップであるのか、成長企業なのか、あるいは成熟企業であるのかといった会社のフェーズごとに課題は大きく異なり、その課題に対応できるクレジットとデビットそれぞれの強みも異なります。

会社のフェーズや置かれている状況・課題に応じて、クレジットとデビットのどちらにするか、お選びいただけたらと思います。もちろん、ビジネスクレジットとビジネスデビットの両方を持ってキャッシュフローに応じて使い分けるといふご利用方法もありだと思っています。



深井 Web広告の支払いを私の個人用クレジットカードで決済しているのですが、思っていた以上の請求額になることもあり、いつも上限に達しないかとハラハラしています。ビジネスデビットであれば、こうした心配がなくなるわけですね。それに、リアルタイムでキャッシュフローが確認できるのも、経営者としてはありがたいですね。

実はアパレル業界の内部での取引形態はまだ昔からの慣習が残っていて、いまだに約束手形や小切手というところも少なくありません。

そういえば過去に一度、約束手形を紛失したことがあります。そのころは大変忙しい時期でリカバーするのにものすごく時間と手間がかかりました。こうした旧態依然とした取引形態を、業界を挙げて進化させていくべきなのでしょうね。クラウド型の電子契約サービスを使おうとしたところ、取引先から「それ、何ですか」と聞かれることもありました。

三浦 決済そのものが利益を生み出すわけではないので、積極的には変えたくないという方もいらっしゃるのかもしれませんが、決済にカードを活用するとビジネスのスピードと生産性が確実に向上します。私たちは、すべての企業間決済でカードが利用できるような世界を実現することで、お客様のビジネスの成長に貢献したいと考えています。

深井 経費精算に費やす時間が減らせるという効果だけでなく、そのわずらわしさから解放され、新しい事業を考える業務に集中できるという効果も経営者としてはうれしいですね。リソースが限られる中、クリエイティブなことを考える時間を

いかに作れるかが、私にとっても社員にとっても本当に大事なことなので。ぜひ、ビジネスカードをうまく使っていきたいと思います。



VISA

Visaは電子決済の世界的リーダーとして、世界200以上の国と地域における決済取引によって消費者、加盟店、金融機関や政府機関をつないでいます。Visaのミッションは、最も革新的かつ利便性や信頼性が高く安全な決済ネットワークで世界を結び、個人や企業、そして経済の繁栄に貢献することです。私たちは、世界中のすべての人にとっての包括的な経済こそが、世界中の人々の生活を向上させ、経済へのアクセスが決済の未来へつながると信じています。詳しくは、[Visa.com](https://www.visa.com)（英語サイト）またはwww.visa.co.jp（日本語サイト）をご覧ください。ビジネスカードについて詳しく知りたい方は[こちら](#)（日本語サイト）をご覧ください。

ビザ・ワールドワイド

KAPOK KNOT

KAPOK JAPANは「世界中にサステナブルで機能的な素材を届ける」をミッションに、木の実から採取されるカポックという素材を通して、「消費者」「生産者」「環境」の3つの視点に立ち、製品ができてから届くまでにかかわるすべての人たちに寄り添ったものづくりを目指します。

秋冬商品・先行予約会を、7月1日（金）～3日（日）13:00～17:00（※3日のみ15:00～17:00）には日本橋ショールーム「Farm to Fashion Base」にて、7月1日（金）～31日（日）にはオンラインにて開催します。詳細はホームページをご覧ください。

カポックジャパン

免責 | 著作権 | データ利用

 N-BRAND STUDIO

[PR] 企画・制作：日本経済新聞社 Nブランドスタジオ

 NIKKEI Nikkei Inc. No reproduction without permission.